

# 会社の雰囲気<sup>1W</sup>を明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返りにしています。せつかつなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/生之

## 女性スタッフ中心の職場づくり

ユメオカのクライアントには、歯科医院、美容院、セラピー関連などの業種が多くいらっしゃいます。ふと気がついたのですが、共通点は女性の職場です。そこで、今日は女性の職場におけるコミュニケーションについて触れてみます。私が多くの女性の職場を見てきて思うに、大きく2つのタイプがあります。

1つは、女性スタッフ同士がお互いを認め合う職場。そして女性特有の優しさでお互いをサポートしあっています。しかし、こういう職場はスタッフが一致団結して、経営者と感情論で対立することに発展しかねません。

もう1つは、女性スタッフ同士で牽制しあう職場。経営者に評価してもらおうと懸命な姿勢を見せる一方で、スタッフ間では自分の縄張りを死守しようとあの手この手で応戦しあっている状態。柔和な中に緊張感が伝わる職場です。

さて、前者と後者の職場、あなたにとってどちらが望ましいでしょうか？

どちらも経営者として大変な面はありますが、職場の雰囲気が良いのは、断然、前者のタイプです。もちろん、その良さがお客様や患者さんにも伝わります。また、成長発展している会社（医院）も前者です。しかし、世の中の女性が多い職場の8割近くは、後者のタイプです。

『この違いは、スタッフ達の資質によって決まってしまうのだろうか？』と考えてみると、実はそうではないと、私は気がつきました。この違いは、女性スタッフではなく、社長（院長）である経営者の姿勢によって決まっています。前者の職場の経営者は、自社（自医院）の考え方や方針を明確にスタッフに伝えており、スタッフ1人1人に真正面から向き合っています。後者は、人が良いタイプでスタッフの話に聞く耳は持っていますが、実はスタッフの悩みに出来るだけ関わりたくないと心で思っていることが多いのです。

「一見人が良いタイプで、スタッフの話はとりあえず何でも聞いてしまう経営者（私は、お人好し社長と呼んでいます）」の姿勢にこそ落とし穴があるわけです。

「多くの男性とは異なり収入やキャリアアップより、感情や居心地の良さで職場を求める女性の特徴」が、お人好し社長を苦しめるようです。誤解を恐れずにいいますと「お人好し社長は、女性スタッフの居心地の良い職場づくりのために利用されてしまう」わけです。そしてそれが縄張り争いに発展しかねません。男性が想像する以上に、女性は男性を上手く使いこなす技を本能で持っているとも言えるでしょう。

逆に経営者が意識的に「女性スタッフが一致団結して経営者に物申す」職場作りをすれば、職場作りという意味においては失敗ではなく、成功したと言えるのではないのでしょうか。